



『北小 家庭学習の手引き』

4月28日(金) 全校朝会の校長講話

皆さん、おはようございます。今日は、『北小 家庭学習の手引き』について話をしたいと思います。
2年生から6年生については、先週行われた授業参観の後の学級懇談会の中で、担任の先生から、皆さんのお父さんやお母さんに、『北小 家庭学習の手引き』について説明をしました。
1年生については、再来週の5月10日(水)に行われる学級懇談会の時に、お家の人に説明します。
この『北小 家庭学習の手引き』は、去年も全員に配りましたので、2年生以上の人達は、どんなことが書かれているか大体知っていると思いますが、今日は改めて＜家庭学習＞について話をしたいと思います。

今、皆さんが、小学校で毎日勉強している内容というのは、＜基礎・基本＞あるいは＜基礎学力＞とって、人間が生きていくために絶対に必要な内容ばかりです。



例えば、「文字が書けない、漢字が読めない、文章が読み取れない、計算ができない、時間や時刻が分からない、桐生市や群馬県のことを知らない、社会や自然界の仕組が分からない」というのでは、将来仕事に就いて、自分の力で生きていくことはできません。
また、勉強（特に小学校の勉強）というのは積み重ねていくものですから、1年生で身に付けたことが2年生の勉強の基になり、2年生で身に付けたことが3年生の勉強の基になるというように、中学校を卒業するまで、ずっと積み重なって続いていき、勉強の中身は段々と難しくなっていきます。

例えば、一桁の足し算・引き算ができないと、2桁以上の足し算・引き算はできません。また、毎年毎年読みとる力が伸びていかないと、6年生の説明文や物語文を読みとることはできません。

したがって、積み重ねが必要なく基礎・基本の勉強というのは、きちんと積み重なっていくように、繰り返し繰り返し勉強していくことが大事で、「やったりやらなかったり」というのでは、なかなか身に付いていかないということです。

皆さんは、毎日学校に来て、一生懸命授業を頑張っていると思いますが、授業中に学んだことをしっかりと身に付けて、それを次の授業に生かしたり、毎日の生活の中で使いこなせる＜生きる力＞にしていったりするためには、学校で勉強しているだけでは十分ではありませんので、家に帰ってから勉強をする必要があります。

どの学年でも＜宿題＞というものが出されると思いますが、この＜宿題＞というのは、皆さんに、大事なことを繰り返し勉強してもらいたいために与えられるものが多いと思います。ですから、出された＜宿題＞は、誰もが必ずやり遂げることが大切です。

でも、『北小 家庭学習の手引き』によると、「**低学年の家庭家庭の時間の目安は30分、中学年は40分、高学年は60分**」となっていますから、＜宿題＞を完璧にやり終えても、時間が余ってしまう余裕のある人は、＜自主勉強＞を行うということです。

＜家庭学習＞というのは、＜宿題＞と＜自主勉強＞のことを指しています。でも、どちらの方が多くなるかは人によって違ってきます。

さらに、＜1・2年30分＞、＜3・4年40分＞、＜5・6年60分＞というのは「目安」ですから、「それ以上家庭学習をやってはいけない」ということではありません。

4月になると毎年、6年生を対象にした＜全国学力・学習状況調査＞というのがありますが、これには＜学力調査＞と＜アンケート調査＞の2つがあって、去年の6年生が行ったの＜アンケート調査＞の集計結果によると、全国の小学校6年生全員に、「**学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日に)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか？(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます)**」という質問をしたところ、次のような結果が出ました。

- 「1日3時間以上家庭学習をしている」と答えた6年生が「11.1%」いました。
- 「1日2時間以上、3時間より少ない」と答えた6年生が「14.8%」いました。
- 「1日1時間以上、2時間より少ない」と答えた6年生が「36.9%」いました。
- 「1日30分以上、1時間より少ない」と答えた6年生が「25.2%」いました。
- 「1日の家庭学習は30分より少ない」と答えた6年生が「8.9%」いました。

この結果によると、全国の小学校6年生の62.8%が、毎日必ず、最低でも1時間以上勉強しているということですから、『北小 家庭学習の手引き』の中に書いてある「5・6年生は毎日家庭学習を60分行いましょう」というの目安は、ごくごく当たり前ということになります。

逆に、「私は毎日の家庭学習を60分しかしていない」とか「僕は60分までと決めている」という6年生がいたとしたら、もしかすると、全国的には平均以下の時間しか勉強していない6年生ということになってしまっているかもしれません。

また、「日本の6年生の25.9%は、1日に2時間以上家庭学習をしている」ということも覚えておいて欲しいと思います。

さて、「宿題が終わったら自主勉強をしましょう！」ということでしたが、**<宿題>と<自主勉強>の違いは何でしょうか？**

それは、「どういう気持ちで取り組んでいるか…」という部分にあります。

もしかすると、「宿題をやっていないと先生に注意される」、「お家の人に宿題をチェックされ、やっていないと叱られる」というような後ろ向きの気持ちで、嫌々取り組んでいる人がいるかもしれない<宿題>に対して、<自主勉強>というのは、「自ら進んで学ぼうとする意欲」、「勉強に対する興味・関心」、「自分をより向上させたいという気持ち」がなければ続けていくことはできません。

そして、「消極的な気持ちで、仕方なくしている勉強」と「自分から積極的にやっている勉強」とでは、勉強に対する心構えが、最初からまったく違うわけですから、やり終えたときの勉強の身に付き方も絶対に違ってくるということです。

では、**<家庭学習>で身に付くものには、他にどのようなものがあるでしょうか？**

『北小 家庭学習の手引き』には、このように書いてあります。

- 一つ目は、今言ったように、授業で学習した内容（勉強）が身に付きます。
- 二つ目。自然に机に向かう習慣が身に付きます。
- 三つ目。自分を律し、やるべきことができる意志の強さが身に付きます。
「自分を律し」というのは、「怠け心や甘えをコントロールする」という意味です。
- 四つ目。けじめのある生活態度が身に付きます。

では、<家庭学習>で勉強する内容には、どのようなものがあるでしょうか？

実は、これについても『北小 家庭学習の手引き』に、「自主勉強のメニュー」として詳しく紹介されていますから、皆さん自身が、よく見て、自分がやりたいと思うものに取り組んでください。

それとともに、去年の11月のオープンスクール、2月の授業参観日に合わせて、<自主勉強紹介コーナー>が「北小っ子通り」に作られて、各学年の色々な自主勉強が紹介されていたのを覚えていると思いますので、それらも思い出して参考にしたいと思えます。

『北小 家庭学習の手引き』には、「わたしのかていがくしゅう＝家族で話し合って、決めたことを書いておきましょう」というページがあります。

6ページに、決めたことを書く欄がありますから、まだ決めていない人は、お家の人と相談して、すぐに決めて書いてください。

最後になりますが、人間の脳を研究している脳科学者によると、人間の脳には、「ニューロン」というたくさんの神経細胞があって、脳の中に新しい知識が入ってくると、新しい「ニューロン」が生まれるということです。

でも、同じ新しい知識でも、自ら進んで学んだり、興味をもって取り組んだりした知識が脳に入ってくる場合は、脳の「海馬」という部分から「 θ （シータ）波」というのが発生して、「ニューロン」がどんどん増えていくことが、実験の結果、明らかになっているということです。「ニューロン」が増えていくというのは、新しい知識が身に付いていくということですから、誰もが何となく思っている、「嫌々やっている勉強よりも、進んでやっている勉強の方が身に付きやすい」というのは、科学的にも証明されているということです。

繰り返しになりますが、皆さんが今、小学校で毎日勉強していることは、人間として生きていくために絶対に必要な<基礎・基本＝基礎学力>です。

前向きな気持ちで、授業を受け、宿題をこなし、自主勉強に取り組めるようなく北小っ子>になって欲しいと思います。 終わります。